平成２２年４月１日

竹井　隆人　様

専修大学長
日高義博

貴著作の利用の御礼

拝啓　時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は本学の教育・研究活動にご理解を賜り深く感謝申し上げます。

さて、本学では、平成２２年２月１０日（水）に実施いたしました一般前期入学試験におきまして、尊台の著作である『社会をつくる自由―反コミュニティのデモクラシー』（２００９年３月　筑摩書房刊）を「国語」の入学試験問題として利用させていただきました。

本来であれば、事前に許諾認可につきましてお伺いすべきところではございますが、入学試験という性質上、事後のご挨拶となりましたことをご了承いただきたく存じます。

ここに、該当する入学試験問題を一部添えましてご報告と御礼を申し上げます。

敬　具

※ご不明な点は下記にお問合せ願います。
専修大学入学センター〔担当〕桝井、川口、菊地
住所：〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1
電話：０４４－９１１－０４２５（直通）

セ11

平成22年度入学試験問題

国　　語

1. 試験開始の合図があるまで，この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は60分です。
3. この問題の本文は全部で12ページ（問題一〜三）です。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は，手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答は，設問に従って，該当する解答欄にマークしてください。なお，すべてマーク解答問題です。解答にあたっては，必ずＨＢの鉛筆またはシャープペンシルを使用してください。
6. 解答用紙に記入するときには，下記の点に注意してください。
   (1) 氏名・受験番号を所定欄に記入し，該当するマーク欄を正確にマークすること。
   （機械処理上，非常に重要なので誤記のないよう注意してください。）
   (2) 訂正する場合は，プラスチック消しゴムで完全に消してから改めて書き直すこと。
   (3) 指定した解答欄以外および枠外の空白部分には何も書かないこと。
   (4) 解答用紙は，折り曲げたり汚したりしないこと。
7. 問題冊子の余白等は適宜利用してかまいません。
8. 試験終了後，問題冊子は持ち帰ってください。

セ11

問題一　次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

私は建築に詳しいわけでもないし、また、建築に関心があるわけでもない。ただ、建築に関する知識や興味はなくとも、ほかの多くの方々同様に、生まれてこの方、さまざまな建築物を数多く目にしてきた経験だけはある。

さる建築工学系の研究会に招ばれたときのことだ。このありふれた自らの経験をもとに日ごろ思っていることが、つい口を突いて出てしまった。「現代建築で私の魂を揺さぶるようなものは何もない」と言い放ったのである。その瞬間、周りから憤激を買うかもしれぬと身構えたが、A私の杞憂に終わった。そこに同席していた建築工学者、歴とした大学教授に至っては「そのとおりかもしれない」と呟く始末であった。おそらく建築専門家も内心では、私の申すことに思い当たるフシがあるのに違いあるまい。

たとえば、近時に都心に新造された何やらヒルズだのといった超高層の商業ビルに大勢の人が押し寄せる光景を目にするが、私なぞはそのような建築物を外から眺めても、はたまた、その内を歩いてみても（とりわけ建築に関して）感心するところなど何ひとつない。

しかし私に上述のような［X］をさせた理由には、Bもっと奥深い問題が潜んでいるように思える。

古来より、建築はしばしば哲学に比定されてきた。

建築家の語源をさかのぼれば、諸術の統合者とされる。つまり、それまで積み重ねられてきた技能や知見を駆使し、構造や機能、そして意匠に至る諸術を束ねて設計し、その机上のプランを現実の物体として表現するのが建築だといえよう。それは、哲学がそれまで蓄えられてきた知見や思想を整理し、諸学を踏まえながら体系化し、世に問うていくことをY シン上とすることに、しばしばなぞらえられるからである。

この哲学で重要とされる要素は、諸学を統合することよりも、諸学の根底をなす体系化を試みることにある。つまり、それは標準として普遍化される真理を追究することであるといえよう。また、それは自己の意思や理想をどこまで貫徹できるかという

問い掛けでもある。

現代建築では、限られた材質や費用から効率や機能を追究することに労力を注ぎ、その技能には相当に長けているように思える。[Z] しかし、自らの信念を貫き、スタンダードを追究するという姿勢には欠けるのではないか、と私は失礼ながら思っている。つまり、[C]、とも。

こうしたことは「自由の履き違え」に通じるのかもしれない。

しょせん、建築でいう「自由」などというものは、他者の目を意識し、ことさらに他者の歓心を買うことに躍起になるものではないのか。一時期、「街の起爆剤になる」などと称して、シンボリックな、悪くいえば奇妙奇天烈な建物が市街地の真っ只中に一点物で建てられることがままあった。そうした建築物が周囲の街並みに良い影響を及ぼすどころか、周囲から浮いた存在として、いまや醜悪な汚物として処遇されている現状を目にすることはないだろうか。

つまり、「スタンダードをつくる自由」、それは私の言う「社会をつくる自由」に通じようが、それを発揮しえていないのではないか。この「社会をつくる自由」が成就せぬうちは、個人の主体性を打ち立てる理想など果たされることなどない。

それは哲学がいまだ彷徨い、探しあぐねている「自由」について、建築はその重要性に気づかず、あるいは、それを探そうともしていないことがその「[D]敗退」につながっているのではないか。

しかし、この哲学でなしえていない、「通俗なる自由」に打ち克つ「社会をつくる自由」を手元に引き寄せる契機を建築は内在させてもいるのではないだろうか。

それは、所与の条件のもとで機能と美とを調和させていかなる物体を構築できるのかを求めることを超えて、その諸条件そのものに関与していく手立てを講ずることであり、それにより機能と美を見出せれば、そこには自負も芽生えるだろう。それは失礼ながら「敗北」と映る、また、その一途をたどるように映る現代建築を救うことにもなるのではないか、と私は思う。

近ごろ、建築はいささか言葉をもて遊ぶところが多いように感ずる。それは実務においても研究においても。

典型は、分譲マンションなどの販売広告だろう。「品格あるたたずまい」「成熟したフォルム」「本物の贅沢」等々。それほど意味があるとは到底思えぬ、ともかく仰々しいコピーが並んでいる。また、分譲マンションの名称には、「リバー」「バレー」「フォレスト」など自然の情景を思い浮かべる冠を付したがるが、そのような環境とまるで無縁としか思えぬ立地であってもお構いなしである。それでも、カタカナ語の意味が読み取れるものはまだマシであろう。まったく意味不明の名称の建築物もやたらと目に付く。

そして、「コミュニティ」という言葉、それに、それが体現すると思われる「仲良し」の教義に対する「絶対的信仰」ともいえる建築の専門家たちの態度もそうであろう。私は彼らを「[E]コミュニティ原理主義者」と名づけたが、本来、工学研究とは合理性が求められるはずだ。言霊よろしく「コミュニティ」をただ言い立てるのみでは精神主義に過ぎず、より極端な言い方をすれば、ある種の宗教的呪術と変わるまい。

ひところ、私は建築や都市を専門とする工学系学会に所属していた。その学会誌を眺めたり、論文審査などを担当させられたりすると、何かというと「コミュニティ」という言葉が目に入ってくる。学術論文だというのに、曖昧な用語をあえて定義せぬまま「魔法の杖」のようにやたら振り回すのは、それが反論を不能にし、自らの学問としての発展を阻害することに気づかぬからであろう。

また、工学系のみならず私のような政治学の専門家にも門戸を開き、学際性を「売り」にする学会では、社会を主題とした社会科学系の論文であっても、人びとの意識などを数値化せねば実証性を備えておらず学術論文とはいえない、などと排斥しようとする工学者がいるのには驚いた。こういう方々は知っていても認めたがらないが、世の中には実証できないことが山ほどある。ましてや人間の意識、精神に関わることなど解明できていないことの方が多いに違いない。あるいは、政治学でも理論政治学などが流行った時期もあるが、その主流は哲学的アプローチであって、数値による実証性がなければ学問でないというならば、この政治学のみならず、建築が比せられてきた哲学をも無価値なものと否定することになるだろう。

（竹井隆人『社会をつくる自由』による）

問一 マーク 空欄 X を補う文字としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 1 にマークしなさい。

① 甘言　② 至言　③ 放言　④ 名言　⑤ 予言

問二 マーク 傍線部Y「シン」を漢字で書き表すとき、正しいものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 2 にマークしなさい。

① 進　② 信　③ 真　④ 心　⑤ 身

問三 マーク 傍線部Z「長」の読みとして正しいものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 3 にマークしなさい。

① た　② い　③ ふ　④ ぬ　⑤ か

問四 マーク 傍線部A「私の杞憂に終わった」とあるが、それは筆者のどのような気持ちから来たものか。もっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 4 にマークしなさい。

① 専門家を前にしていささか自信のない気持ち
② 専門家の前で自説を述べる得意な気持ち
③ 専門家の前でもひるむことのないように自分を励ます気持ち
④ 専門家にも自分の意見を知ってもらおうとする必死な気持ち
⑤ 専門家をも恐れない自信に満ちた気持ち

問五 マーク 傍線部B「もっと奥深い問題が潜んでいるように思える」とあるが、それに関わることとして、もっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 5 にマークしなさい。

① 建築が専門家の考えのみで生み出され、人間の魂を揺さぶることを建築に求める考え方を排除しようとすること
② 哲学の持つ諸学を統合する側面を、建築の中に持ち込もうとする建築家が増えてしまっていること
③ 所与の条件のもとで機能と美を調和させるべき建築が、街の宣伝効果の方を優先してしまっていること
④ 古来諸術の統合者とされてきた建築家が、自らの信念を貫きつつスタンダードを追究するという姿勢を失っていること
⑤ 自分本位な建築物を、周囲に溶け込ませることで満足している建築工学が横行していること

問六 マーク 空欄 C を補う表現としてもっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 6 にマークしなさい。

① その俗っぽさゆえに哲学には及ばないだろう
② その即物性において哲学に通ずるだろう
③ そのいい加減さゆえに哲学に優るだろう
④ その効率性において哲学に並びうるだろう
⑤ その安っぽさゆえに哲学に影響を与えるだろう

問七 マーク 傍線部D「『敗退』につながっている」とあるが、「敗退」しないためにはどのようなことをしなければならないと筆者は考えているか。もっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 7 にマークしなさい。

① 個人の主体性を打ち立てるような理想を掲げるのを控え、与えられた条件のもとで建築そのものの機能と美を高く評価しようと心がける
② 建築に対して言葉をもてあそぶような姿勢をやめ、本来の建築の持つ機能と美に目を向けるようにする
③ 哲学に毒された「社会をつくる自由」という理念を、もとの正しい考え方に引き戻した上で、建築に内在させる契機を作り出す
④ いかなる物体を建築するかでなく、与えられた諸条件そのものに関与していく手立てを講ずることで、機能と美を見出すように努めていく
⑤ 「スタンダードをつくる自由」といった哲学が探しあぐねている問題の解決に向けて、建築家も哲学者と積極的に話し合う機会を持つようにする

問八 マーク 傍線部E「コミュニティ原理主義者」とあるが、「コミュニティ原理主義者」のふるまいとしてあてはまるものはどれか。もっとも適当なものを次の①～⑤の中から一つ選び、解答欄 8 にマークしなさい。

① およそ環境とは無縁としか思えない立地などにも、自然を思い浮かべるような冠や名称を平気で付してしまうこと
② 曖昧な用語の定義をあえてしようとせず反論を不能にし、自らの学問としての発展を阻害してしまうこと
③ 数値による実証性がなければ学問でないと主張し、政治学や哲学を無価値なものと否定すること
④ 工学系のみならず政治学の専門家にも門戸を開き、いたずらに学際性を「売り」にすること
⑤ 精神主義や宗教的呪術を信奉し、「絶対的信仰」の必要性を強く周りの人間に説いてみせること

問題二 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

昔、大納言のむすめいとうつくしうてもちたまひたりけるを、帝にたてまつらむとて、かしづきたまひけるを、殿にちかうつかうまつりける内舎人(注)にてありける人、このむすめを見てけり。顔かたちのいとうつくしげなるを見て、よろづのことおぼえず、心にかかりて、夜昼いとわびしく、やまひになりておぼえければ、A「せちにきこえさすべき事なむある」といひわたりければ、「あやし。何ごとぞ」といひていでたりけり。

この男、Bさる心まうけして、ゆくりもなくかき抱きて馬にのせて、陸奥国へ、夜ともいはず昼ともいはず、逃げて往にけり。安積の郡安積山といふ所に庵をつくりて、この女を据ゑて、里にいでつつ物などは求めてきつつ、食はせて、年月を経てありけり。

この男往ぬれば、ただ一人物も食はで、山のなかに居たれば、かぎりなくわびしかりけり。かかるほどに、はらみにけり。この男、物求めにいでにけるままに、三四日、来ざりければ、まちわびて、たちいでて山の井にいきて、影を見れば、わがありしかたちにもあらず、Cあやしきやうになりにけり。鏡もなければ、顔のなりたらむやうも知らでありけるに、俄にみれば、いと恐ろしげなりけるを、いとはづかしと思ひけり。さてよみたりける、

あさかやま影さへ見ゆる山の井の X 人を思ふものかは

とよみて、木に書き付けて、庵にきて死にけり。男、物など求めてもてきて、死にて伏せりければ、いとあさましと思ひけり。山の井なりける歌を見て帰りきて、これを思ひ傍にふせりて死にけり。

（「大和物語」による）

（注）内舎人……天皇の警備をする下級役人